

表紙／多古町北東部、南玉造地区にある玉造大橋から見た朝焼け。周囲は田園が広がり見晴らしがよく、この眺望を立地の理由として挙げる企業もあるほど。(本ガイド4ページ参照)

多古町

企業進出ガイド



人・文化・自然 みんなでつくる 潤いのまち 多古



お問い合わせ

多古町産業経済課

TEL:0479-76-5404 FAX:0479-76-7144

〒289-2292 千葉県香取郡多古町多古584 多古町役場

TEL 0479-76-2611(代表)

E-mail: info@town.tako.chiba.jp URL: https://www.town.tako.chiba.jp

本ガイドの内容は2019年2月末時点での情報であり、変更となる場合がございます。また誌面の都合上内容を省略した箇所もございますので、立地ご検討、及び詳しい情報をお求めの際には町役場までお気軽にご連絡下さい。

ここでやろう。
多古でやろう。

必見!

食品加工・製造業、
農業、流通業

豊富な水資源、
優れたアクセス、
低廉な地価で
ビジネスのお手伝いをいたします。

WHY TAKO?

多古町でビジネスする
3つの理由

コストパフォーマンスに優れた立地。
アクセス×水資源×低地価で
企業のビジネスをサポート。

AM6:01 - 多古の夜明け

一面の田園風景が広がる多古町・島地区。午前6時、明けの明星が輝く南東の冬空にはやかに明るみを帯び始める。同時に成田空港を目指す飛行機のライトが現れはじめた。ゆっくりと、しかし次々と飛来する飛行機は、これまでの夜の静けさに終わりを告げ、新しい朝の訪れを象徴するような光景を感じさせた。

多古町が企業にとって
新しい朝のような存在でいられるように。

理由 1 優れたアクセス性

成田空港至近。圏央道開通でさらに向上するポテンシャル

多古町は成田国際空港に隣接しており、中心部から車で約20分で世界各国の玄関にアクセスできます。輸出入のハードルの低さ、取引先やお客様のアクセスの良さにつながっています。

大量消費地である東京都心まではおよそ80分であり、たとえば食品の生産・加工の拠点としてみたときには優れた物流動線を構築することが可能です。

また、東京外かく環状道路（外環道）の開通もあり、都心のみならず首都圏各地へバランスよくアクセスすることができますので、物流拠点としての立地的優位性も兼ね備えています。

さらに現在大栄ICまで開通している首都圏中央連絡自動車道（圏



各都市への車での所要時間目安

※実際の距離から算出。渋滞等の時間を含まず

央道）が横芝ICまで延伸工事中であり、完成後は更に圏央道を利用した首都圏広域ネットワークを期待することもできます。

これらを踏まえると、アクセス面で幅広い可能性が存在する町といっても過言ではないでしょう。

理由 2 豊富な水資源

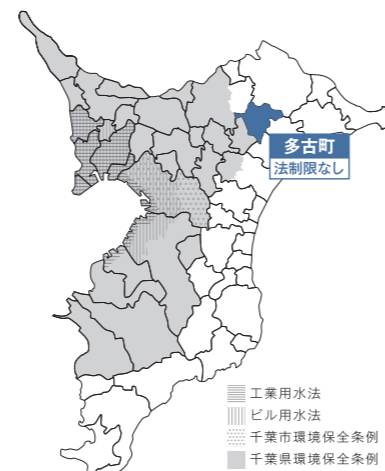
取水制限のない地下水で水源を安価に確保

多古町には県の条例や国の法制などによる地下水の取水制限がありません。

具体的に地下水の取水に制限のある地域では、吐出口の断面積やストレーナー深さ、揚水機の出力、揚水量などに規制が存在するほか、地下水の使用用途によって使用許可が下りない場合もあります。

多古町においても届出が必要になる場合や、揚水量の測定・記録・保存が必要になる場合もありますが、ストレーナー深さ、吐出口断面積、使用用途、揚水機などの制限はありません。これにより、大量の水を使用する業種では不可欠な水源を、上水道のみを利用する

よりも圧倒的に安価に確保することが可能です。



地下水の取水に制限のある区域

理由 3 低廉な地価

成田市の約1/4、東京都中央区の約1/354

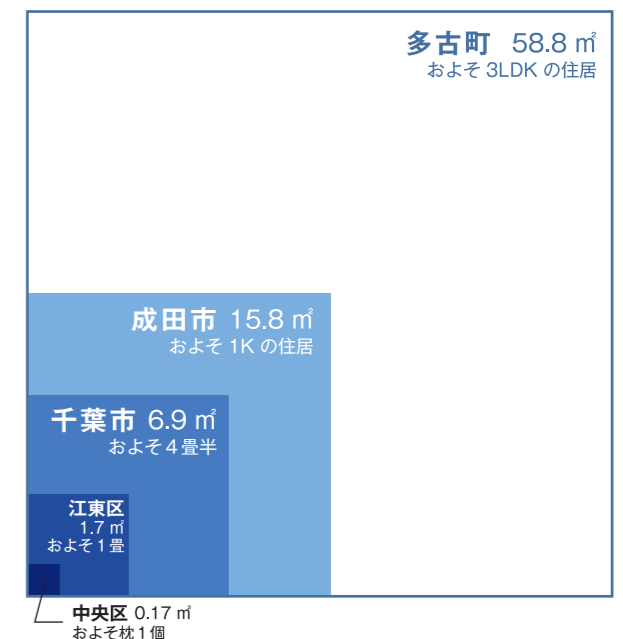
多古町の平均地価は1㎡あたり17,000円[※]です。これは、全国的に見ても周辺の地域と比較しても安価な地価です。たとえば、東京都中央区の枕1個分ほどの土地の金額で、多古町では3LDKの住居が入るほどの土地を入手できます。

低廉な地価は事業用地の取得に多大なメリットをもたらします。広大な敷地面積を必要とするビジネスには特におすすめです。

※平成30年千葉県地価公示「市区町村別平均価格順位表《全用途平均》」による

100万円で買える土地面積目安

平成30年都道府県地価調査（全用途平均）から算出



COMPANY VOICE

多古町立地企業の声

「ここでやろう——」
企業が求めていた《理想》が
《確信》となったその理由

Case 1 古谷乳業株式会社

多古町水戸（多古工業団地）



代表取締役 社長
古谷 裕彦様

豊富な水資源と良好なアクセス性が移転のきっかけに。酪農の中心地にフルライン多品種少量生産体制を確立

当社は千葉県成東で創業、その後銚子に工場を設け、さらに事業拡大のため1960年代後半に千葉市の食品コンビナートへ工場を増設しましたが、1980年代末頃から取水制限の問題が出てきたため、移転を検討することになりました。

毎日製造や洗浄に大量の水を使うので水資源の確保は生命線でしたが、多古町は良質な水資源に恵まれていました。

また全国有数の酪農地である千葉県内の生産地に近く、新鮮な原乳を確保する上でも非常に有利な立地条件であることから、1991年、それまでの生産工場を集約し多古町での操業を開始しました。

現在は東京外環道の開通により、首都圏のお取引先などへのアクセスが向上しました。今後、圏央道の全面開通で更に利便性が高まるものと期待しています。



上/工場に運び込まれる原乳。生産地へのアクセスも良好 下/原料の受入から品質検査までHACCP認証も取得、多様な製品に対応。

Case 2 富士正食品株式会社

多古町水戸（多古工業団地）



企画開発室
笹本 泰司様

多量の水を使えること、地価が安いことに加え、町のサポートが六次化の成功へ

当社はもともと千葉県銚子で佃煮・ビーナッツみそなどを製造していましたが、平成に入りフルーツデザートリーの製造を始めました。最初の工場は大栄町（現成田市）にありましたが2013年に現在の新工場完成に移転しました。国際基準に準拠したこの工場では、衛生管理上大量の水を使います。多古町は地価も安く、良質な水資源があるので工場移転の

決め手になりました。多古町は地域の結びつきが強く、町役場からは数々の提案もいただき、他の企業や生産者との連携から地元の特産品を利用した商品開発など新しい試みにチャレンジできる環境があります。工場を作ってから支援をいただけたのは本当にありがたいところでした。



上/多古工業団地内にある成田工場外観 左下/主力商品のフルーツゼリーが流れる充填室。水資源を有効に活用 右下/包装室

Case 3 石垣食品株式会社

多古町飯笹



製造部 成田空港工場 工場長
鈴木 晃様

輸入のための空港へのアクセスがきっかけで進出食品加工ノウハウ確立の場へ

当社は日本で最初の水出し麦茶を1965年に開発しました。それをきっかけに事業を拡大しそれまでの工場では手狭になったため1986年に新たな工場を多古町に建設しました。多古町周辺にはビーナッツを焙煎する業者が多く、商品製造に必要な技術とノウハウがあったことが後押しとなりました。

成田空港に近いということは、多

古町の工場が開発した技術をもとに海外の拠点で生産する際にも有利でした。輸入した原料の検品などもこの工場が担ってきました。また国内の原材料も圏央道を通じて関東近県から集めやすいのもメリットです。

当社が新しいものを作るといって意欲的だったということもあり、多古町の工場で得られた技術は新しい商材を生み出す力となりました。



上/工場内の様子。効率的に集められた原材料を加工から出荷まで行う 左下/工場外観 右下/日本初の水出し麦茶は今でもここで生産している

Case 4 有限会社九十九里ファーム

多古町喜多

多古米と交通の便、町のイメージを活用し、アンテナショップを展開

私たちはたまごの直売を通じ、消費者と連携した養鶏と循環型農業を目指して活動してまいりました。自家配合の飼料作りから鶏糞を肥料とした野菜生産までを一貫して行っております。

多古町では産直たまごをその場でたまごかけご飯としてお召し上がりいただけるアンテナショップ『たまご屋さん Cocco』を展



代表取締役 林 功様
パッケージセンター 林 共和様・裕子様

開しております。出店にあたり重要視した点は、まずシンプルなたまごかけご飯にマッチする美味しいお米である多古米の存在、そして国道沿いで成田空港にも近いアクセスの良さです。近隣の田園風景が私たちの商品のイメージとマッチしていたこともあり、多古町への出店はお客様に美味しい体験をしていただくための最適な選択となりました。

上/看板商品のたまごかけご飯 左下/店内には産地直送のたまごや野菜が並び 右下/国道沿いの店舗外観

Case 5 農事組合法人多古町旬の味産直センター

多古町次浦

都心へのアクセスと豊かな自然の両立が、消費者と生産者を繋ぐ

旬の味産直センターは、商品を安定した価格で届けたいという農家の思いと、消費者と直接ふれあう機会がきっかけとなり設立されました。現在では新規就農受け入れの仕組みづくり等にも取り組んでいます。

私たちにとって多古町の小売施設としての立地は最高です。東京や成田から近く自然が豊か、



専務理事
鎌形 芳文様

まずそれを体験すればファンになってもらえます。交流施設や本格イタリアンのお店も作りました。ここで野菜を買ってくれた人たちを中心に知名度も広がり、年間5000人ほどが訪れるようになりました。

地域の雇用が増えることは歓迎ですので、これからいっしょに企業様にもできる限りの協力をしていきたいと考えています。

上/国際基準対応の倉庫 左下/付帯加工所で検品、パッキングを行う 右下/消費者に直送する「野菜セット」

企業立地支援制度 SUPPORT SYSTEM

企業立地の支援制度には、国の政策による法制、千葉県や多古町の条例などがありますので、その一部をご紹介します。詳しくは事前にご相談ください。

多古町企業誘致条例

企業奨励金

多古町内に事業所を新設・移設・増設する場合受けることができる優遇制度です。

新設・移設の場合

固定資産税の

90%を交付します。

初年度の場合。2年目は70%、3年目は50%

増設の場合

固定資産税の

50%を交付します。

(再投資により課された1ヶ年度分相当に限る)

雇用促進奨励金

新設等に伴い常時雇用した

従業員1名につき

10万円を交付します。

町内在住で1年以上の雇用が継続する場合のみ

従業員転入奨励金

新設等に伴い町内に転入した

従業員1名につき

10万円を交付します。

1年以上の町内継続在住かつ雇用継続の場合のみ

指定要件（抜粋）

【投下固定資産額】1億円以上

【敷地面積】1,000㎡（増設の場合は500㎡）以上

【延べ床面積】500㎡（増設の場合は250㎡）以上

【常時雇用人数】5人以上

【その他】公害を発生させるおそれがないこと、町税等の滞納がないこと

※対象業種、奨励金の内容等、詳しくは多古町企業誘致条例及び規則をご覧ください

千葉県企業立地優遇制度

千葉県立地企業補助金

千葉県内に進出する企業に対する県の助成制度です。種目により要件、補助額等が異なります。

主な優遇内容

建物に係る不動産取得税相当額交付
償却資産に係る固定資産税相当額交付 他

企業立地促進法による優遇

「企業立地計画」または「事業高度化計画」を作成し、県知事の承認を得ることにより、各種支援措置を活用することができます。

主な優遇内容

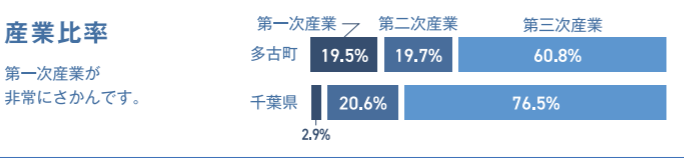
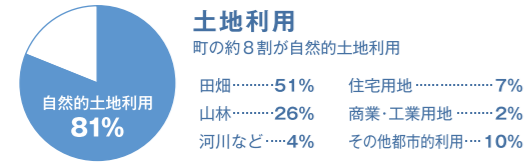
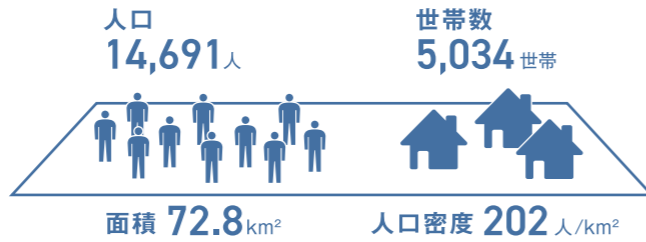
設備投資促進税制・特別償却の適用
日本政策金融公庫による低利融資制度 他

CURRENT AND FUTURE

多古町の「今」と「これから」

多古町基本データ

ABOUT TOWN OF TAKO



【出典】人口・世帯数・面積／多古町、2019年2月1日現在、土地利用／2006年都市計画基礎調査、事業所数／2014年経済センサス基礎調査、総農家数／2015年農林業センサス、産業比率／2014年国勢調査

自然に恵まれた町

多古町は千葉県の北東部に位置し、都心から約70km、千葉市から42km、成田市から17kmの距離にあります。街の北西は成田市、北東は香取市、南東は匝瑳市、横芝光町、南西には芝山町が位置しています。

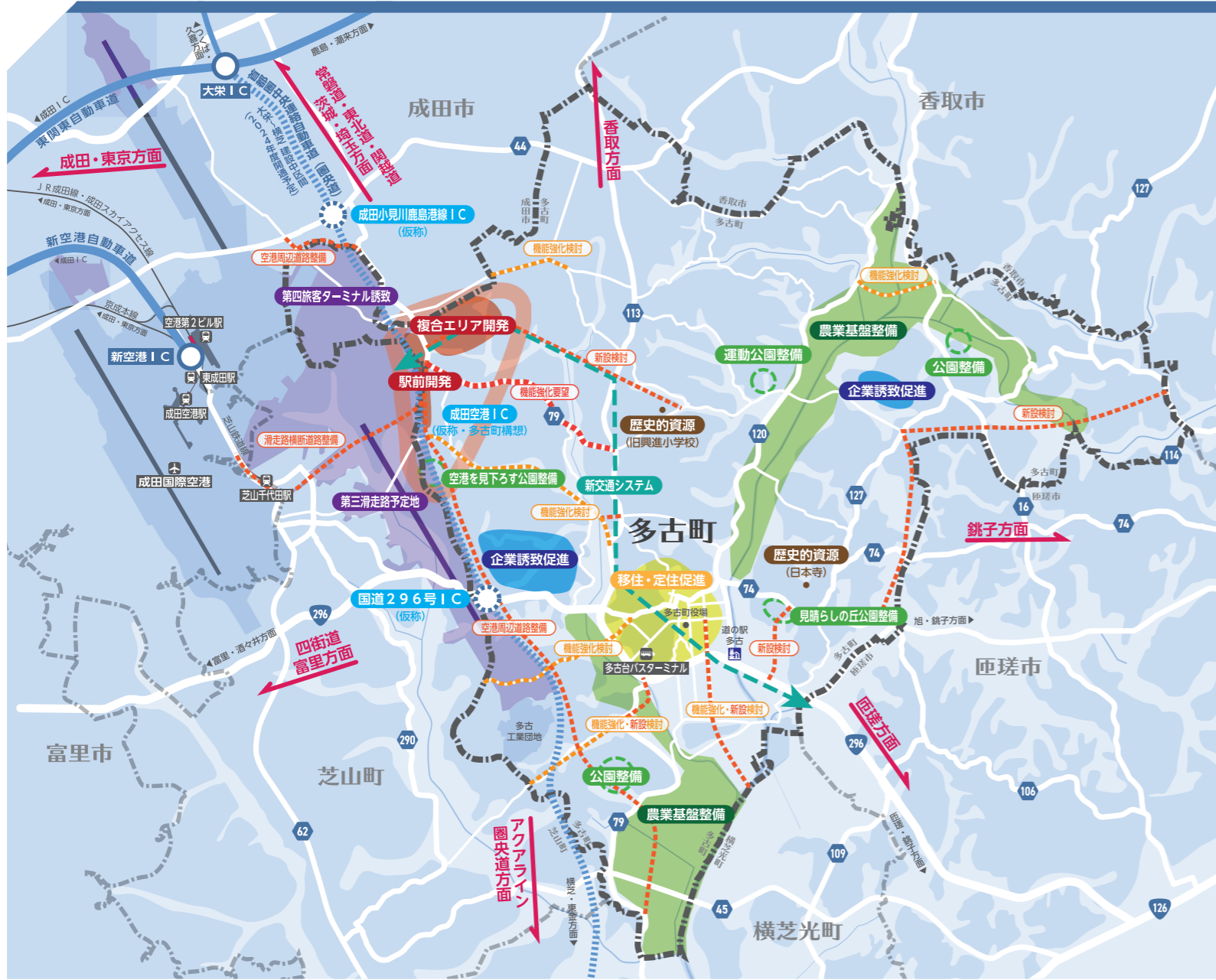
町中央部を南北に流れる栗山川の流域は、平地で水田地帯が広がっています。北部及び東部は台地で畑地帯となっており、その境の斜面は山林となっています。地名の由来の一説として、かつて海底が隆起して陸地となった際多くの湖ができたことから「多湖（多古）」と呼ばれたともいわれている本町は、栗山川の豊かな水と田園風景、また里山の色とりどりの緑によって、自然あふれる美しい町となっています。

まだまだあります！

多古町の魅力

※条件等詳しくはご相談下さい

<p>生活・子育て 高校生等まで医療費助成 医療費実質無償</p>	<p>生活・子育て 町内在住の小中学生 給食費実質無償</p>
<p>生活・子育て 認定子ども園設置 多古町内 待機児童0名</p>	<p>生活・子育て 奨学基金利用 町内在住と就業で 奨学金免除あり</p>
<p>住まい 定住した方で要件に応じ 住宅取得奨励金交付</p>	<p>住まい 住宅ローン「フラット35」 金利優遇あり</p>
<p>産業 地域団体商標登録 ミネラル豊富な土壌と 多古米</p>	<p>産業 全国有数の生産量 やまといも</p>
<p>ビジネス 町内全域で高速安定通信 光通信可能</p>	<p>産業 特産品・ブランド開発 補助制度あり 六次化推進</p>



多古町未来構想

FUTURE OF TAKO

多古町には成田国際空港の機能強化と圏央道の延伸を軸に、大きく分けて7つの分野に分かれた構想があります。

多古町では2001年に「豊かな自然と歴史が育む田園文化都市：たこまち」を将来像に掲げた「多古町総合計画」を策定し、多古町固有の豊かな自然と歴史を資源としながら、良好な

居住環境と文化的環境の整った住み良いまちづくりを町民と一緒に進めてまいりました。

地方自治体を取り巻く情勢は、地方分権の進展や少子高齢化による人口減少、地球規模での環境問題の顕在化、情報通信技術の発達、国や地方における財政の悪化等、大きく変化しています。これらに伴い町民の協力のもと、町民と町が目標を共有する新しい「多古町総合計画」を2011年に策定しました。この計画をもとに「都市計画マスタープラン」「多古町まち・ひと・しごと創生総合戦略」「多古町成田国際空港東側地域戦略構想」などを策定しました。

さらに、成田国際空港の更なる機能強化に向けた取組みや、首都圏中央連絡自動車道の整備に向けた具体的な取組みが始まるなど、今後多古町には新たな人口増加や産業誘致等の波及効果が期待されています。これらのインパクトを最大限に受けとめるために「目標となる国際空港都市の姿」を示すことを目的として、2017年度に多古町成田国際空港東側地域戦略構想を改訂し、これを発展および進化させた土地利用構想図として2018年に「多古町未来構想」を策定しました。

左頁の地図はこの構想と国土交通省、成田空港株式会社などの資料を参考に作成したものです。

- 成田空港及び交通機能を活用した地域活性化に結びつける拠点の形成**
空港関連施設の誘致
空港東側入口の整備
総合バスターミナルの整備
圏央道インターチェンジ周辺の土地の利活用の推進
複合エリア（定住、商業、工業）
- 新交通システムの整備**
- 企業誘致の推進**
空港や物流等の産業集積
空港関連産業等の誘致
- 公園の整備**
運動公園、観光公園、眺望公園、交流施設等
- 農業基盤の整備**
- 空港周辺の道路網強化**
圏央道から最短で空港に乗り入れるインターチェンジの整備
既存国道の機能強化
県道バイパスの整備
町道の機能強化
空港東側地域のアクセス強化
- 移住定住促進**